

第 37 回 お茶の水女子大学日本言語文化学会研究会プログラム

2008 年 11 月 29 日 (土) 午後 1 時 30 分開会

◎ポスター発表 午後 2 時～2 時 50 分

「ハ構文の社会的機能の習得-スキーマ形成の観点から」

遠山千佳 (立命館大学)

「読解におけるフォーマルスキーマの活性化を通じた異文化コミュニケーション能力の養成

-学習者の Multi-competence を活用して-

田崎敦子 (東京農工大学)

「日本人と中国人のビジネスコミュニケーション及び習慣に関する意識調査-在中日系企業を対象に-

孫愛維 (お茶の水女子大学)・劉娜 (お茶の水女子大学)・野々口ちとせ (お茶の水女子大学)・

徳永あかね (神田外語大学)・矢高美智子 (茨城大学)・近藤彩 (政策研究大学院大学)・

尹松 (華東師範大学)・張瑜珊 (お茶の水女子大学)

「在印日系企業における日本人側のコミュニケーションに対する葛藤」

近藤彩 (政策研究大学院大学)・金孝卿 (国際交流基金日本語国際センター)・

ムグダ・ヤルディ (政策研究大学院大学修士)

「ビジネス日本語教育におけるタスク先行型ロールプレイ教材に対する学習者の評価」

向山陽子・村野節子・山辺真理子 (武蔵野大学)

「TAEの質的研究と作文教育への応用—ステップ7を中心として—」

得丸さと子 (日本女子体育大学)

「言語少数派の子どもの継続的認知発達の保障-母語の認知面の保持・育成と日本語の認知面の発達に注目して」

穆紅 (お茶の水女子大学大学院生)

「学生同士の相互評価が発表への意識及び実際の発表に及ぼす影響-中国の日本語専攻出身の大学院生を対象に-

朱桂榮 (北京日本学研究中心)

「批判的思考能力育成をめざしたクラス活動の試み-学部1年の留学生に対する実践から-

田代ひとみ (東京外国語大学留学生日本語教育センター)

「ジグソー型ブックトークを通じた日本社会に関する知識の構築」

大島弥生 (東京海洋大学)

◎研究発表 午後 3 時～5 時 10 分

<第 1 分科会> 司会: 原田三千代

「教室内評価としてのグループ・オーラル・テストの実施報告-評定者間信頼性と受験者の反応-」

堀川有美 (国際交流基金日本語試験センター)・徳間望 (韓国外国語大学)

「日本語教師のインターネット作文添削への態度-PAC 分析による検討-」

鈴木 (清水) 寿子 (お茶の水女子大学大学院生)

「精読授業にグループワークを導入する可能性-会話活動と翻訳活動における実態の比較を通して-

楊峻 (北京語言大学)

<第 2 分科会> 司会: 菊池民子

「日本における韓国人父母の言語教育観-父母の日本滞在歴と子どもの学年を中心に-

朴貞玉 (お茶の水女子大学大学院生)

「上級日本語学習者との会話における母語話者の言語行動」

小松奈々 (お茶の水女子大学大学院生)

「接触場面における母語話者と学習者のスピーチレベルの使い分け-スピーチレベルシフトの生起状況を中心に-

福富理恵 (お茶の水女子大学大学院生)

◆ 第 37 回日本言語文化学会研究会運営協力者 (敬称略)

高岸 美代子、岡村 佳代、金 秀恵、呉 曉婧、黄 美蘭、黄 明淑、小松 奈々、酒井 彩、蔣 帥、白田 千晶、張 倩、長戸 裕香、早川 杏子、福富 理恵、劉 雲霞、鈴木(清水) 寿子